

特別支援学校 学校評価一覽表 ③ (令和4年度版)

(様式3)

羅 針 盤			学 校 関 係 者 評 価		達 成 度		
評価対象	評 価 項 目	具体的数値項目			①	②	総合
I 幼児児童生徒の地域における豊かな生活の実現に向けて努めていますか。	1 保護者、地域、関係機関に学校の教育活動について、具体的に伝えてありますか。	①ホームページの充実及び学校からのメール送信等で、必要な情報取得が工夫されていると感じている保護者が80%以上である。	I-1-①について ○保護者向けのたよりをスマホで見られるのは便利になったが、紙で配付されたときは必ず見ているが、「見る」「見ない」の選択肢があるので、見ないときもある。 →件名の先頭に(緊急)(重要)(お知らせ)のいずれかをつけて送付しているので、この取り組みを今後も継続する。 I-2-②について ○校訓の「礼儀、感謝、挑戦」が印象に残った。生徒たちの礼儀が実にきちんとしている。 →教職員が率先してあいさつすることを通して、生徒が自分から進んであいさつができるよう指導していきたい。 ○町内美化活動のように環境美化に協力してもらいありがたと思う。清里小の前のロータリーに植えてある花は、前高特で育ててもらった花の苗を育てたもので地域の方からの評判もよく、感謝している。 →年3回の町内美化活動を継続していき、地域の皆様への感謝の気持ちを育てていきたい。	I-2-②について ○アピリンピック喫茶サービス部門の交流では、前橋西高の福祉や医療関係を目指す生徒と交流することだが、目標はわかるが同年代の自然な交流ができることが大切なのではないかと感じた。 ○障害のある人が、社会に出て分けられてしまっていることを強く感じる。前橋西高と前高特の交流についても、同年代の交流で垣根がなくなっていくと良いと思う。 →過去に前橋西高校と交流をしていたが途絶えてしまった。今年度が復活の年であり、まずは今回をきっかけに両校が繋がることを目指して取り組んでいる。 →今年度は喫茶サービスだけでなく、ピルクリーニングでも交流を行った。少しずつではあるが、参加者が増えた。	A	A	A
	2 保護者、地域、関係機関との共通理解が深まり、有効な支援が行われていますか。	②学校の活動紹介を保護者、地域、関係機関に年5回以上回覧している。			A	A	A
II 地域の特別支援に関するセンター的な役割を果たしていますか。	3 障害のある幼児児童生徒の教育について、助言援助に努めていますか。	③センター的機能の役割を果たしていると感じている高校等の関係が、80%以上である。	○この項目については意見は出ませんでした。	A	A	A	
III 幼児児童生徒一人一人の実態に応じた適切な指導をしていますか。	4 個に応じたきめ細かな指導を行っていますか。	④「個別的教育支援計画」・「個別の指導計画」の目標が、個々の特性や課題に即していると感じている保護者が80%以上である。 ⑤昨年度より導入されたタブレットを授業で活用したことにより、情報活用能力が高まったと感じている保護者が80%以上いる。	III-5-⑦について ○作業学習を参観して思ったことは、先生が生徒に寄り添って指導している。生徒一人ひとりの特性に合わせた指導の仕方が、先生全体に浸透している様子が感じられた。 →作業学習を通して、生徒が就労に必要な基礎的な態度、技能、知識を身につけられるよう、指導者間で指導や支援方法を工夫しながら取り組んでいきたい。	A	A	A	
	5 指導内容の確実な定着を図る授業が行われていますか。	⑥情報機器の活用により指導内容が以前よりも定着しやすくなったと感じている教員が80%以上いる。 ⑦就労に必要な態度や作業能力が身につけてきていると感じている保護者が80%以上いる。		B	B	B	
	6 健康に関する配慮や対応を適切に行っていますか。	⑧生徒の発達段階や課題を考慮した性に関する指導について、80%以上の保護者から理解や協力を得ている。		A	A	A	
IV 健康や安全の確保に努めていますか。	7 危機管理体制が確立され、緊急時への備えができていますか。	⑨年3回の避難訓練で、職員の避難誘導が実際の場面に即した態勢になっていると、関係機関の方から80%以上の評価を得ることができる。	IV-8について ○「生徒指導だより」に掲載されていた自転車ヘルメットの着用の取り組みが参考になった。事業所に自転車通ってくる利用者さんがいるが、自転車ヘルメットを着用していない。学校の取り組みを知って気付かされた。 →自転車通学者は全員ヘルメットを着用している。また、自転車盗難防止のため、自転車の鍵だけでなく、学校の自転車置き場の固定物にも鍵をかけて二重ロックもしている。 ○「自転車の整備点検」や「自転車保険の加入」はどのようにしているのか？ →「自転車通学許可願」の用紙に「自転車の整備点検」と「自転車保険の加入」の記入欄があり、事前に整備点検や保険加入をいただいている。	A	B	A	
	8 年間を通じて、計画的な生活・安全指導を行っていますか。	⑩生徒自身が身だしなみを気をつけるようになったと感じられる保護者が80%以上である。 ⑪学校全体で取り組んでいる「いじめ防止活動」が実際に、いじめ防止につながっていると感じられる保護者が80%以上である。		B	A	A	
	9 生徒の安全確保の観点から施設・設備を管理していますか。	⑫体育館改修工事が安全に配慮して執行されていると感じられる保護者が80%以上である。		A	A	A	
	10 キヤリア教育の視点から、指導内容を整理して体系的な指導を行っていますか。	⑬社会生活に必要な資質や能力、言動などが段階的に身に付いてきていると感じる保護者が80%以上である。		A	A	A	
V 将来の生き方に結びつく進路指導を行っていますか。	11 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑭「福祉就労」の種類や「一般就労」にあたっての知識が、学校からの案内等でわかりやすく伝わっていると感じる保護者が80%以上である。 ⑮計画的な職業教育、就業体験実習、進路相談を行い、段階に応じて進路実現が可能だと感じている生徒・保護者が80%以上である。	V-10、11について ○卒業し就労した生徒の中に、実習の時にまはしていない仕事に戸惑ったり、新たな問題ができてしまったりして順調にいかない生徒がいることについて、学校の実習の時はお客様扱いになってしまっているのではないかと思いい不安を感じる。実際に就労した時に直面する様々な場面を想定して、仕事に就く厳しさを教えてほしい。 →日々の作業学習や就業体験実習、校内実習などにおいて、一人一人の卒業後の就労を見据えて、実習と就労との違いを折に触れて話したり、実習後の個別面談などで保護者にも伝えたりするようにしていきたい。 V-10、11について ○前高特は一般就労率が高い。もしかしたら一般就労を希望していたが、今回は願いが叶わなかった人がいても、まだチャンスはある。本人の成長やタイミングもあるので、焦らずチャレンジしてほしい。 →本人や保護者の思いや願いを踏まえつつ実態や適性などに応じた進路実現ができるよう進路指導をしていく。また、卒業生への卒業後支援も継続していきたい。 ○弊社に入社した前高特の卒業生は、元気に仕事をしている。 →今後とも卒業生への温かい支援をお願いしたい。	A	A	A	
	12 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑯「福祉就労」の種類や「一般就労」にあたっての知識が、学校からの案内等でわかりやすく伝わっていると感じる保護者が80%以上である。		A	A	A	
	13 保護者、関係機関との連携のもとに発達段階に応じた進路指導を行っていますか。	⑰計画的な職業教育、就業体験実習、進路相談を行い、段階に応じて進路実現が可能だと感じている生徒・保護者が80%以上である。		A	A	A	